

第9章

グローバル化と中国の歴史教育の変容 ——内政と外交の狭間に揺れる教育改革

王 雪萍

はじめに

「毛（沢東）はどこへ？ 中国が歴史教科書を改訂」と題する『ニューヨークタイムズ』の2006年9月1日付の報道をきっかけに、上海市によって独自に編集し出版された高校歴史教科書が中国国内外で広く注目されるようになった。この高校歴史教科書の主編は、上海師範大学の蘇智良教授であったことから、蘇版教科書とも呼ばれている。佐藤邦彦の研究¹⁾によれば、『ニューヨークタイムズ』の報道を受け、同年9月から10月にかけて北京の歴史学界から蘇版教科書に対する反対意見が噴出した結果、2007年5月、上海市教育委員会は、新たな歴史教科書を編集すると発表した。発表と同時に、蘇智良氏は主編を辞任し、新しい教科書の主編には余偉民・華東師範大学教授が就任した。その3カ月後には高校1年生用の『高中歴史第一分冊（試験本）』が出版され、同教科書は2007年9月入学の高校1年生から使われるようになった。

上海市による教科書改訂に対してはさまざまな意見が出されたものの、その多くは中国の中央政府の姿勢への反対意見であった。果たして、蘇版の教科書はどのような歴史を具体的には教えようとしたのか、従来上海市で編集されていた教科書とどこが異なるのか。また、蘇版教科書の代替として、2007年8月に編集された余版教科書は、蘇版とどう違うのか。その違いは中国政府のいかなる教育方針を反映したものであるのだろうか。

以上の問題意識にもとづき、本章は、上海教育出版社より1995-2004年に出版され、1995年から2004年まで使用された沈起煒版高校歴史教科書（以

下：沈版教科書)、上海教育出版社から2003-2005年に出版され、2003年から2008年まで使用された蘇版歴史教科書の試験本(以下：蘇版教科書)、華東師範大学出版社より2007-2009年に出版された余版歴史教科書(以下：余版教科書)について、字数統計によるデータ分析の手法を用いて、上海市独自で編集された歴史教科書の変化を分析した。さらに、各時期の上海市の高校歴史教育の重点内容を分析することによって、上海市政府が歴史教育を通じて生徒に伝えたい国家観の変化も明らかにしていく。なお、佐藤公彦の著書では、すでに蘇版と余版の教科書内容に関する比較を行っていることから、本章では、以上の三つの教科書の国家に対する記述の量的な変化を比較し、上海市の教科書改革によって教科書に描かれた外国観および世界観の変化を分析する。

そして本章は1990年代から2008年までの上海市を中心に、中国の教育改革と中国のグローバル化との関連性を論じたい。上海版の高校歴史教科書の改訂は、グローバル化の国際情勢を意識し、全国における教科書改革の先頭に立って進められてきたが、その取り組み自体は評価すべきことである。しかし、その一方、『ニューヨークタイムズ』の報道がきっかけとはいえ、蘇版教科書の出版停止、再編集を余儀なくされたのは国内の政治的な要因が大きく影響している。本章では、この事例を通じて中国の教育改革が内政と外交の間で揺れ動く状況も明らかにしたい。

I 中国の教育制度改革と上海の歴史教科書

上海市の歴史教科書は、2006年の『ニューヨークタイムズ』報道によって、国内外から強い関心をもたれるようになった。とりわけ、この報道の効果もあって、上海市の歴史教育改革は中国の最先端であるとの見方が広がった。しかしながら筆者は、上海で蘇版教科書のような歴史教科書が編集されるとともに、2003年に試用開始され、2008年まで使用することができたのは、全国における教育改革の声や中央政府が推進していた「新課程改革」と不可分であったためと考える。

そこで、中国の教科書制度とその改革過程を簡単に概説しよう。1950年8

月1日、中国教育部は中華人民共和国初の教育計画である「中学暫行（暫定）教学計画（草案）」を配布し、中学と高校に開設する科目を規定した。そのなかには、政治、国語、数学、物理、歴史、地理などの科目が含まれていた²⁾。同じく8月、出版総署は全国出版会議を開催し、すべての小中高等学校の教科書は全国一律で用いなければいけないとの方針を提起した。同年12月1日、人民教育出版社（以下：人教社）が正式に発足し、翌年には中国全国の小中高校で使用する教科書を初めて出版した³⁾。1952年、人教社は初めて自らが完全編集した中学歴史教科書を出版し、翌1953年には高校歴史教科書を編集、出版した。さらに、1955-1956年にかけて、人教社は、比較的周到に編纂された中学および高校向けの歴史教科書を出版した。こうして1980年代まで（文革時期を除く）中国全国の小中高等学校では、人教社から出版された教科書を基本的に使用していたのである⁴⁾。

1985年1月、教育部は「全国小中高等学校教科書審定委員会の業務条例（暫定試行）」を公布した。1986年9月、全国小中高等学校教科書審定委員会と各教科教科書審査委員会が正式に発足し、20名の審定委員と200名あまりの審査委員が任命された。1987年10月、国家教育委員会（1998年3月に教育部に改称）は「全国小中高等学校教科書審定委員会の業務規範」、「小中高等学校教科書審定基準」と「小中高等学校教科書審査申請方法」の三つの文献を正式に発出した。この一連の政策は、中国小中高等学校の教科書は国定制から審定制へ変化したことを示している。これらとほぼ同時期の1986年4月、全国人民代表大会第四回会議において『中華人民共和国義務教育法』が採択され、同法において、国務院の教育管理部門は、社会主義の現代化の必要性和児童、青少年の心身発展の状況にもとづき、義務教育の教育制度、教育内容、設置する教科を確定し、教科書を審査すべきと規定した。こうして、基礎教育課程の義務教育と教科、教科書の多様化は法的根拠をもつことになったのである⁵⁾。

1987年以降、一部の省、市の教育関係部門では、人民教育出版社版ではなく、地元独自の教科書の出版を検討しはじめた。1988年、上海市は、沈起煒を主編とする歴史教科書編集チームが小中高各段階の歴史教科書の編集準備をはじめた。編集後、上海教育出版社より出版された沈版教科書は

2004年まで上海市で使用された。上海市独自の歴史教科書の出版は、中国政府の教育改革における教科書の多様化推進の一環として現れたといえる。21世紀に入ってから、素質教育（個人の人格の発達を重視する教育）の考え方が徐々にまとまり、中国政府は新課程改革の実施に乗り出した。新課程改革についての分析は、張栄偉の著作で比較的詳細に紹介されている。

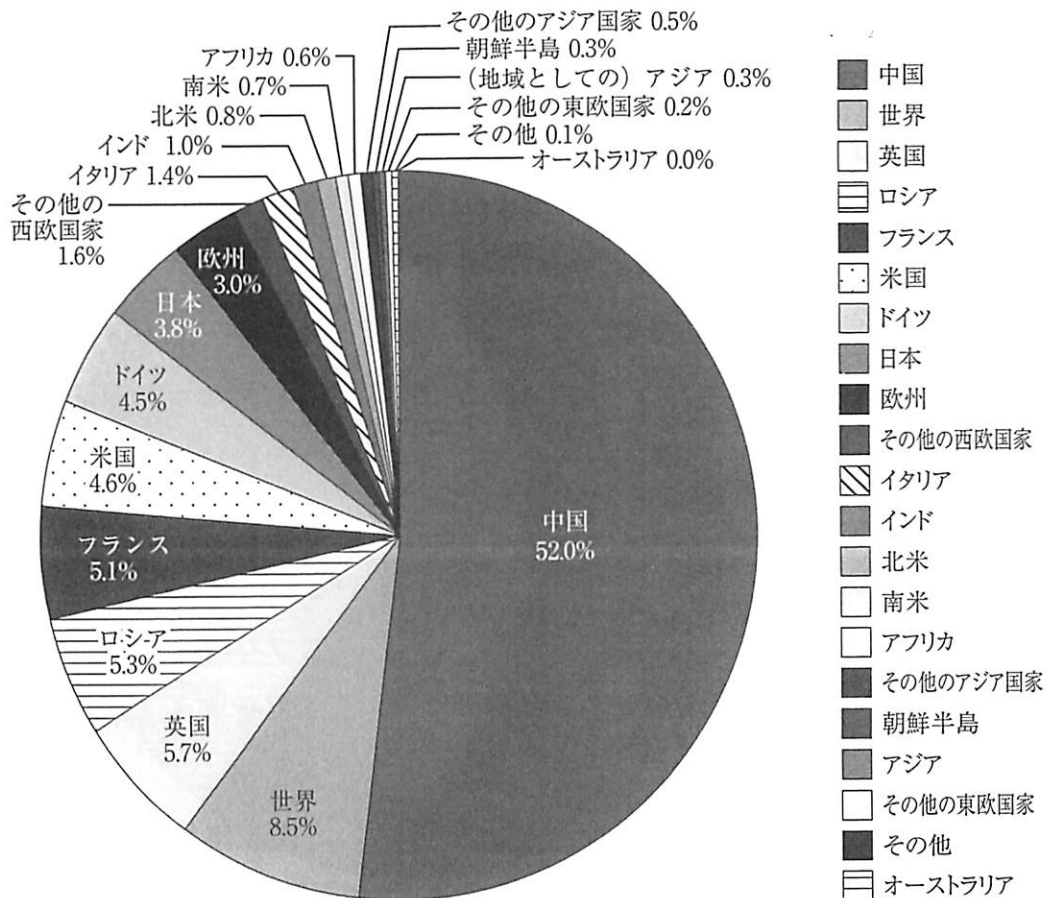
張栄偉によると、新課程改革は20世紀末から準備が進められ、2001年6月8日、「基礎教育課程改革綱要（試行）」（教基〔2001〕17号）が教育部から発出された。この綱要にもとづき、素質教育を進めていくことになったが、その教育課程の措置として新課程標準を遂行し始めたのである。具体的には、従来の「教学大綱」を「課程標準」に改名し、「教授を基本とする」教育方針から「学習を基本とする」方針へと変更した。また、生徒が授業内容の学習を通じて、グローバル化に適應すべく、知識と知能、過程と方法論、感情態度と価値観などの面をいかに高められるのかを重視した。新課程標準に沿った教科書の編集は、その後少しずつ展開していった⁶⁾。

上海市の中学と高校の歴史教科書の編集は、上海師範大学歴史学部蘇智良教授が担当することになった。蘇智良主編の中学校歴史教科書は2002年に試用本が出版され、高校の歴史教科書は2003年に試験本（パイロット版）⁷⁾が出版された。そのうち、高校の歴史教科書が3年間の試用期間を経て、2006年に正式な教科書として出版された。これが『ニューヨークタイムズ』の報道によって大きな反響を呼んだのである。蘇版の教科書は、2007年9月に余版教科書が新しく出版されたことによって使用停止になったものの、2006年入学の高校生が卒業する2008年までの5年間で合わせて4学年の生徒に使用された。

II 1995年以降出版された三つの上海版高校歴史教科書の比較

上海市独自の高校歴史教科書のなかでは、蘇版がもっとも有名で、上海市政府によって使用停止になった後も、国内外から賛否両論の声が絶えなかった。蘇版と余版の教科書の内容的な異同および事件に関連する因果関係については、佐藤公彦の研究ですでに詳細に分析され、とくに蘇版教科書に關す

図 9-1 上海教育出版社 1995 - 2004 年高校歴史教科書（沈版）の国別内容の割合



出所：沈起煒主編『高級中学課本 歴史 上冊（試用本）一年級』（上海世紀出版集団・上海教育出版社、1995年6月第2版 2004年6月第15刷）、沈起煒主編『高級中学課本 歴史 下冊（試用本）一年級』（上海世紀出版集団・上海教育出版社、2002年8月第2版 2004年8月第10刷）、沈起煒主編『高級中学選修課本 歴史（実験本）供三年級文科班用』（上海世紀出版集団・上海教育出版社、1997年7月第2版 2004年7月第8刷）の内容にもとづき、筆者作成。

注：「アジア」は地域としてのアジア「その他のアジア国家」は国家単位の説明で中・日・朝・インド以外のアジアの国。（図9-2、9-3、9-4、9-5、9-6も同じ。）

る分析のなかでは、共産主義思想や階級闘争観の内容に重点をおいて説明がされている。そこで、本章は、上海市が独自に出版した三つの高校歴史教科書のなかの国家の説明方法に焦点を当てて分析する。本章では、主として教科書の字数統計によるデータ分析の手法を用いた。

1995 - 2004年に使用された沈版教科書は、高校1年生用の世界近現代史の上下2冊と高校3年生用の中国古代史1冊の計3冊である。図9-1は3冊の各記述内容を国別に計算した結果をまとめたものである。

高校3年生用の中国古代史教科書のほとんどが中国関連の内容であるため、中国は記述全体の52.0%を占めた。その次は世界全体についての紹介で、全

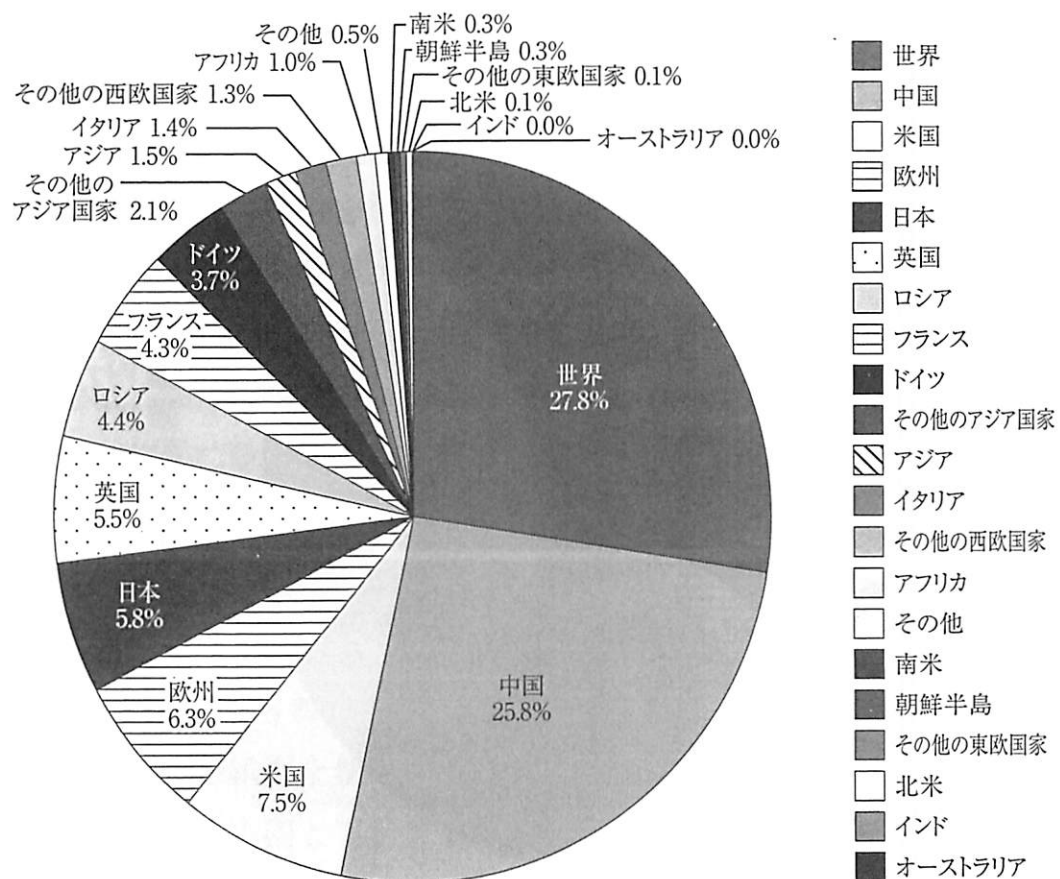
体の8.5%を占める。その他の国についての紹介は全体に占める割合の多い順に、英国5.7%、ロシア5.3%、フランス5.1%、米国4.6%、ドイツ4.5%、日本3.8%、イタリア1.4%、インド1.0%、朝鮮半島0.3%となっている。

図1からわかるように、中国以外の国については、記述の中心は西側先進諸国である。なぜかという、高校1年生の歴史は世界近現代史であり、その始まりを「西欧資本主義の勃興」としたことから、世界近代史の主な内容が西側資本主義国家の歴史紹介になったのである。そして、世界の歴史発展の過程に、中国近現代史を併せて説明する方法を用いて、中国近現代史についても簡単に紹介した。とくに、第二次世界大戦後の現代史の部分では、中国現代史の記述割合を増やしている。字数分析では、上海市の高校歴史教科書は、中国と西側先進諸国の歴史を主に説明しているとの結論が導き出される。当然のことながら、教科書のなかではアジア、アフリカなどの発展途上国の歴史についても紹介されているが、その割合は合わせても全体の3%に満たなかった。

このように国家の歴史を中心に説明する方法は、2003年出版の蘇版教科書で大きく見直された。図9-2は、蘇版教科書の各国別の記述内容の比率を示したものだが、図9-1と比べて中国関連部分の比率は、沈版の52.0%から25.8%へ大幅に減少した。逆に大幅に増えた部分は「世界(27.8%)」、「欧州(6.3%)」、「アジア(1.5%)」、「アフリカ(1.0%)」など、世界あるいは一つの地域についてまとめて紹介する内容であった。この変化は、蘇版教科書が人類の文明史、文化史、政治史に関する説明を一段と重視したことによるものである。しかも、人類の文明史、文化史、政治史に関する記述も、より総合的な地域文化に関する説明が多いためか、人類の文明などに関する記述の主語は、より大きな地域範囲を表す「世界」、「欧州」などの単語が使用されやすい。

もっとも、蘇版教科書では、国家史に関する紹介がまったくないわけではない。たとえば、3年生用の『高校中学課本 歴史 高中三年級(試験本)』(上海教育出版社、2005年)は、古代から現代までの世界の歴史を①「古代三大文明地域の形成と変化」、②「主要な先進諸国の近代化過程」、③「18世紀以来の中国」の三つの主題に分けて紹介した。これらを総合すると、蘇版教

図 9-2 上海教育出版社 2003 - 2006 年高校歴史教科書（蘇版）の国別内容の割合

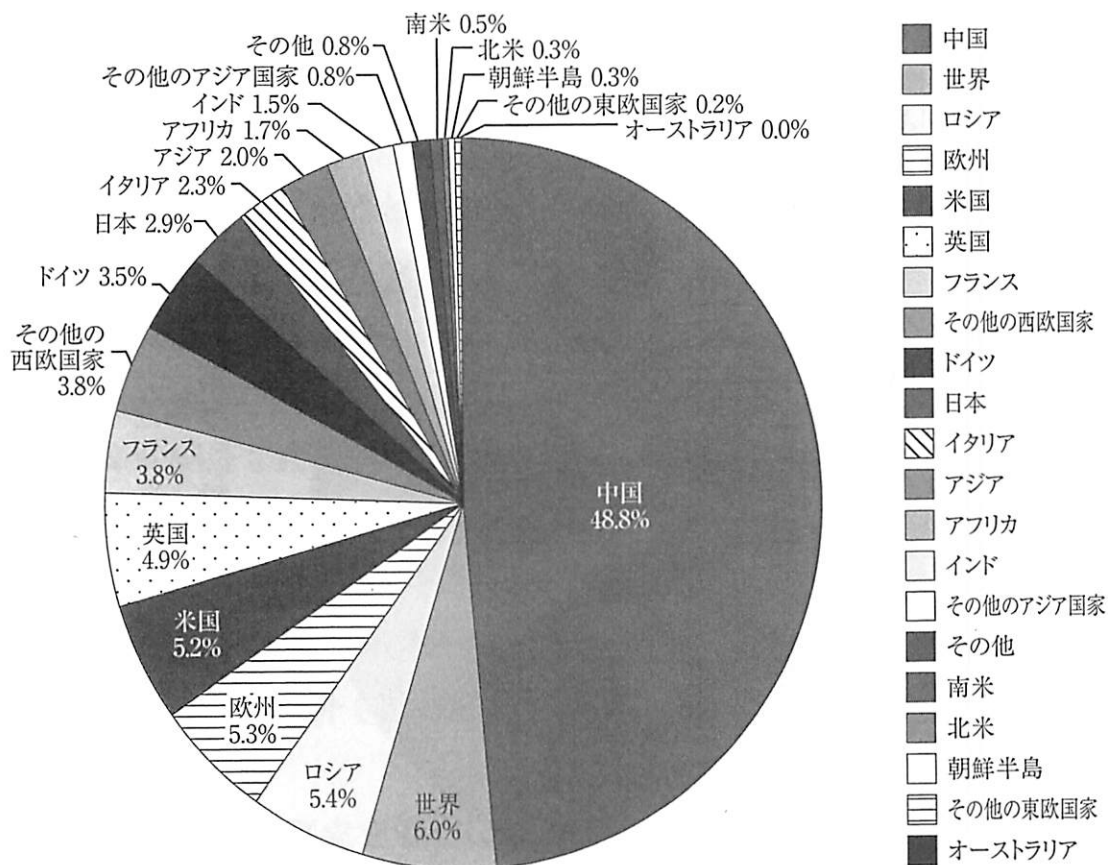


出所：蘇智良主編『高級中学課本 歴史 高中一年級第一学期（試験本）』（上海世紀出版集団・上海教育出版社、2003年8月第1版 2004年4月第2刷）、蘇智良主編『高級中学課本 歴史 高中一年級第二学期（試験本）』（上海世紀出版集団・上海教育出版社、2004年1月第1版 2004年1月第1刷）、蘇智良主編『高級中学課本 拓展型課程教材 歴史 高中三年級（試験本）』（上海世紀出版集団・上海教育出版社、2005年8月第1版 2005年8月第2刷）の内容にもとづき、筆者作成。

教科書の1年生の部分では、主として世界全体あるいは大きな地域範囲の文明史、文化史の紹介に重点におき、3年生の教科書では、宗教史、主要先進諸国（英、仏、米、独、露、日）、そして中国の近現代史を重点的に説明した⁸⁾。英、仏、米、独、露、日6カ国に関する記述は全体の31.2%を占め、そのなかでは米国（7.5%）と日本（5.8%）の割合が多かった（図9-2）。これは、教材の編集過程において、当時の政治や経済の大国であった米国、日本を重視したためと推測される。

蘇版教科書がより広い地域範囲の歴史的発展を重点的に紹介できたのは、中学校における歴史教育との一体性を十分意識して編集されていたからであろう。蘇版の中学校歴史教科書を見ると、7年生用の『中国歴史』の2冊は、古代から現代までの中国の歴史に対する詳細な説明を行い、8年生用の『世

図 9-3 華東師範大学出版社 2007 - 2009 年高校歴史教科書(余版)の国別内容の割合



出所：余偉民主編『高級中学課本 高中歴史 第一分冊(試験本)』(華東師範大学出版社、2007年8月第1版 2007年8月第1刷)、余偉民主編『高級中学課本 高中歴史 第二分冊(試験本)』(華東師範大学出版社、2007年10月第1版 2007年10月第1刷)、余偉民主編『高級中学課本 高中歴史 第三分冊(試験本)』(華東師範大学出版社、2008年11月第1版 2008年11月第1刷)、余偉民主編『高級中学課本 高中歴史 第四分冊(試験本)』(華東師範大学出版社、2008年3月第1版 2008年3月第1刷)、余偉民主編『高級中学課本 高中歴史 第五分冊(試験本)』(華東師範大学出版社、2008年8月第1版 2008年8月第1刷)、余偉民主編『高級中学課本 高中歴史 第六分冊(試験本)』(華東師範大学出版社、2009年1月第1版 2009年1月第1刷)の内容にもとづき、筆者作成。

『世界歴史』の2冊は、国家史の論述方法で古代から現代までの世界史について説明している⁹⁾。中学校時代に基礎ができているからこそ、高校では、文明史や文化史の教育をより重点的に行うことが可能になった。国家史の記述を減らした点については、そうすることによって中学校の歴史教育との重複解消につながったと評価できよう。

それでは、蘇版教科書が使用停止になった後、余偉民が編集した高校の歴史教科書はどのような比率になっているのであろうか。余版教科書における国別の内容比率をみると、蘇版教科書では37.0%を占めていた世界、欧州、アジアなどの地域を主体とした記述は、余版では16.0%に減少した。逆に、

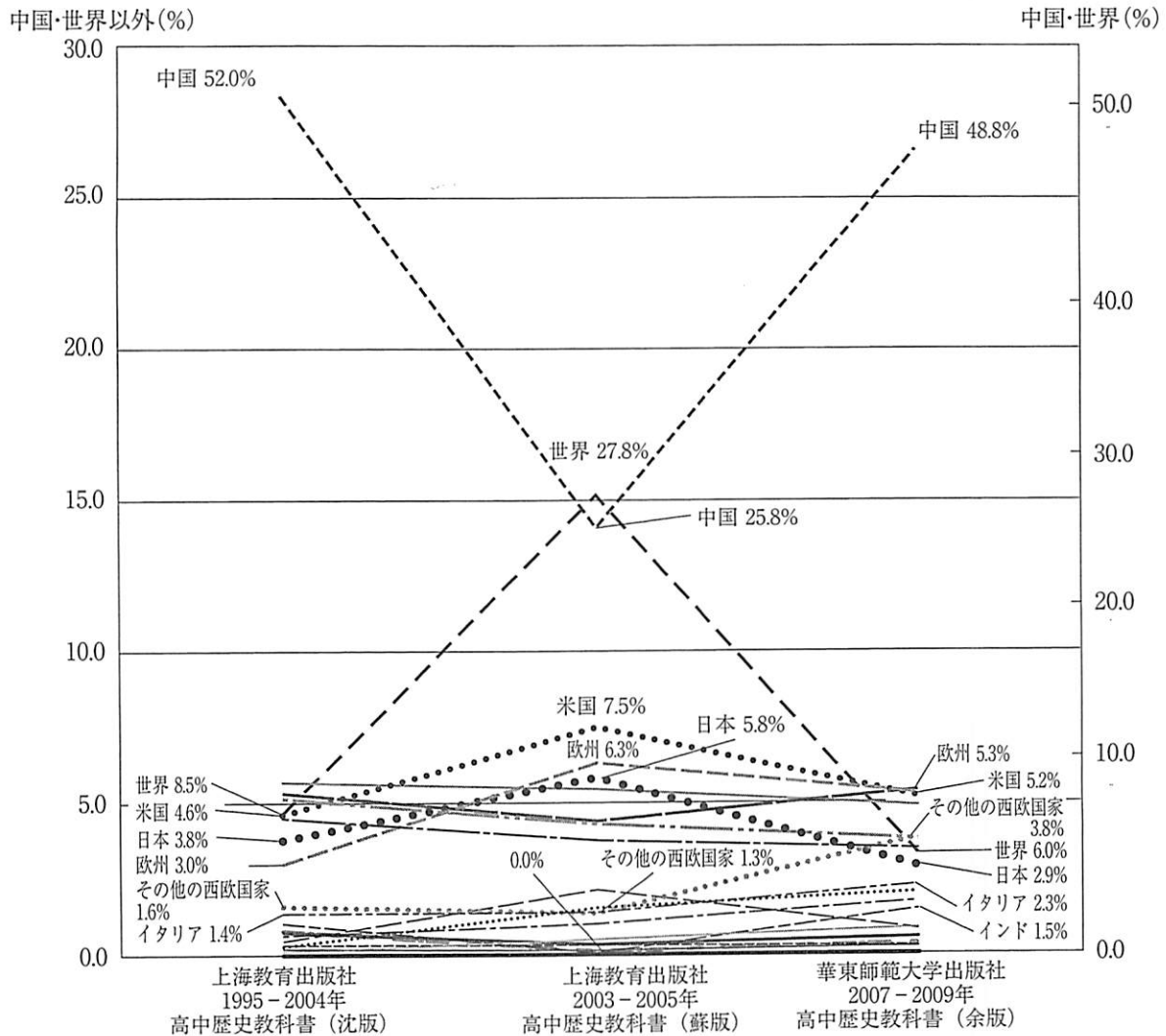
中国を含む国家史は全体の83.2%に増加した¹⁰⁾。余版では、国家史を中心とする記述に回帰したといえるが、この点は教科書の分冊構成からみても一目瞭然である。全部で6冊ある余版高校歴史教科書は、第一分冊と第四分冊は世界古代史、第二分冊と第三分冊は中国古代史、第五分冊と第六分冊は世界および中国の近現代史を説明したものである。このような分け方は、新課程改革前の中学校と高校の歴史教科書とほぼ同じである。また、第一分冊と第四分冊を使って、世界の古代史を説明するという一般的ではない分け方から、筆者は、余版教科書は厳しい時間制限のもと、1990年代の中学校の歴史教科書を参考に急遽編集されたと推測する。とはいえ、近現代史について世界史と中国史をセットで編集する方式は、新課程改革以降の編集方針を応用したものと判断できる。

比較しやすくするため、図9-1から図9-3のデータを図9-4としてまとめた。図9-4からわかるように、蘇版教科書は、沈版や余版と比較した場合、より多くの紙面を使って、世界、欧州、米国、日本などの地域、国家を紹介する一方、中国とアジアなどの国に関する状況紹介が少なくなっている。これは、蘇版教科書の重点内容である世界文明史、経済史、宗教史のなかに、欧米諸国に関連する内容が多く含まれているためと考えられる。もう一つ注目すべき点は、沈版や蘇版ではあまり重視されていないインド、イタリアおよびその他の西欧国家の部分が、余版教科書において比率が上昇していることである。沈版や蘇版との相対的な比較ではあるものの、余版教科書では、アジアや欧州など、より多くの国の歴史を教えようとする姿勢が読み取れる。

次に、三つの教科書の字数の量を比較分析してみよう。三つの教科書のなかで字数がもっとも多かったのは、1995-2004年の沈版教科書であり、総字数は725,144字であった。もっとも少ないのは、2003-2006年の蘇版教科書の519,638字である。2007-2009年の余版教科書の字数は合計で525,006字であった。蘇版高校歴史教科書の3冊に対して、余版高校歴史教科書は6冊で冊数が倍増したにもかかわらず、字数の量はほとんど変わらないことが明らかとなった。

図9-5は、三つの教科書の字数統計データをまとめたものである。字数

図 9-4 上海高校歴史教科書の国別内容割合の比較図（出版時期別）



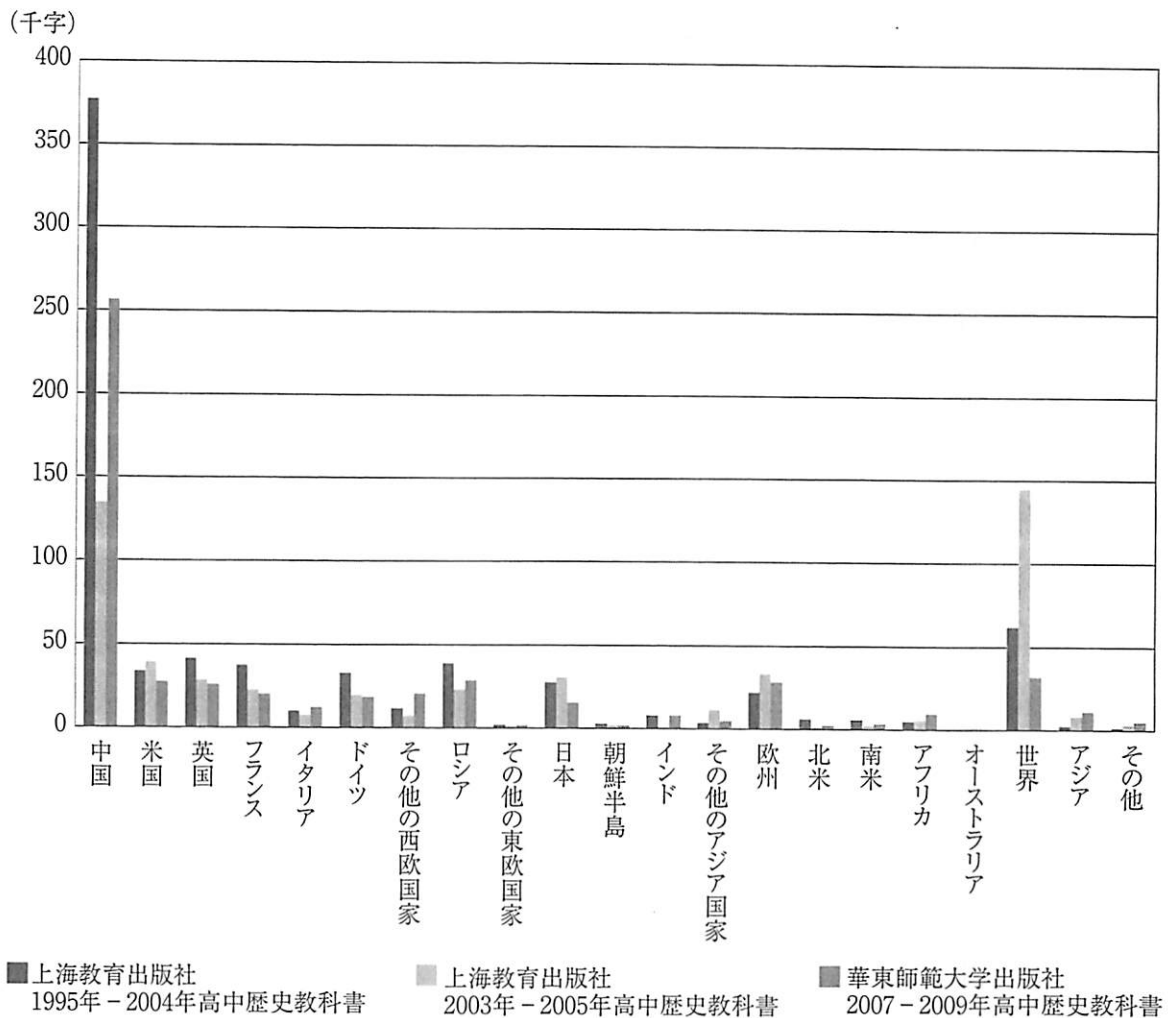
出所：図 9-1～図 9-3 のデータを総合し、筆者作成。

の量からみれば、沈版と余版でもっとも多くの字数を使って紹介したのは「中国」であったが、蘇版も、2番目に多い字数を使って中国を紹介しており、国家別ではもっとも多い。なお、蘇版の第1位は「世界」であり、全部で144,485字を使って世界全体の歴史を紹介している。

III 上海版と人教社版の高校歴史教科書の比較からみる 中国全体の歴史教育改革の意図と上海での挫折

三つの上海市独自の教科書での変化に関する上述の分析を通じて、グローバル化社会に向けた上海市による教科書改革は、『ニューヨークタイムズ』

図 9-5 上海高校歴史教科書の国別内容字数の比較図（出版時期別）



出所：沈起煒主編『高級中学課本 歴史 上冊（試用本）一年級』（上海世紀出版集団・上海教育出版社、1995年6月第2版 2004年6月第15刷）、沈起煒主編『高級中学課本 歴史 下冊（試用本）一年級』（上海世紀出版集団・上海教育出版社、2002年8月第2版 2004年8月第10刷）、沈起煒主編『高級中学選修課本 歴史（実験本）供三年級文科班用』（上海世紀出版集団・上海教育出版社、1997年7月第2版 2004年7月第8刷）、蘇智良主編『高級中学課本 歴史 高中一年級第一学期（試験本）』（上海世紀出版集団・上海教育出版社、2003年8月第1版 2004年4月第2刷）、蘇智良主編『高級中学課本 歴史 高中一年級第二学期（試験本）』（上海世紀出版集団・上海教育出版社、2004年1月第1版 2004年1月第1刷）、蘇智良主編『高級中学課本 拓展型課程教材 歴史 高中三年級（試験本）』（上海世紀出版集団・上海教育出版社、2005年8月第1版 2005年8月第2刷）、余偉民主編『高級中学課本 高中歴史 第一分冊（試験本）』（華東師範大学出版社、2007年8月第1版 2007年8月第1刷）、余偉民主編『高級中学課本 高中歴史 第二分冊（試験本）』（華東師範大学出版社、2007年10月第1版 2007年10月第1刷）、余偉民主編『高級中学課本 高中歴史 第三分冊（試験本）』（華東師範大学出版社、2008年11月第1版 2008年11月第1刷）、余偉民主編『高級中学課本 高中歴史 第四分冊（試験本）』（華東師範大学出版社、2008年3月第1版 2008年3月第1刷）、余偉民主編『高級中学課本 高中歴史 第五分冊（試験本）』（華東師範大学出版社、2008年8月第1版 2008年8月第1刷）、余偉民主編『高級中学課本 高中歴史 第六分冊（試験本）』（華東師範大学出版社、2009年1月第1版 2009年1月第1刷）の内容にもとづき、筆者作成。

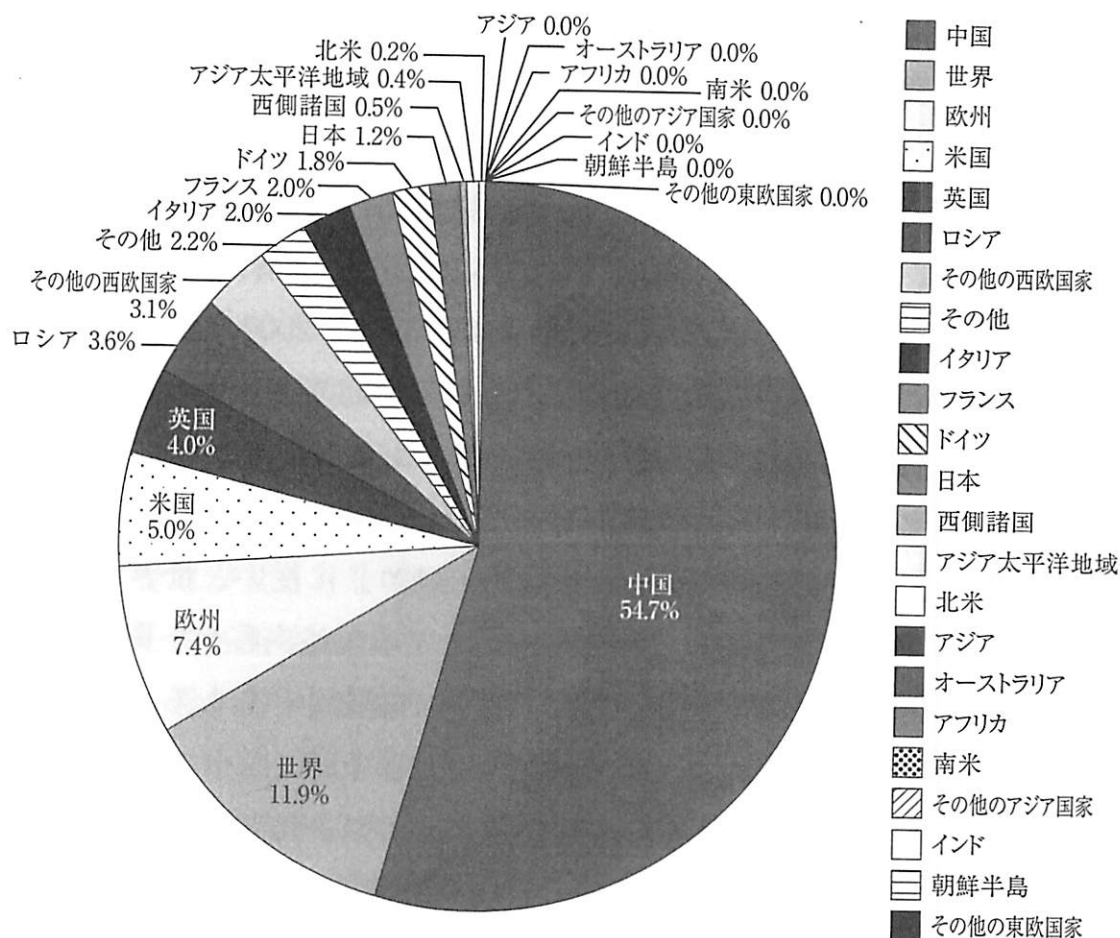
の報道を発端に、蘇版高校歴史教科書が使用停止に追い込まれ、中学校教育の繰り返し、かつ国家史中心の余版教科書への差し替えが急遽決定されたことを改めて確認した。この事実だけをみれば、上海の教科書改革は挫折したといえる。

ただし、これは前に述べた「新課程改革」における全国高校歴史教育改革全体が挫折したという意味ではない。蘇版教科書の使用禁止は上海のみならず、全国の歴史教育学会と編集担当者に衝撃を与えたのは事実である。しかしその一方で、2001年の「新課程改革」の実施以降、中国の小中高等学校の各教科の「課程標準」は、中国教育部によって作成される従来の方式から、各大学や研究機関の研究者グループによる入札制に変更され、落札者によって作成された「課程標準」が教育部作成の形で公示され、全国の出版社の教科書編集における基本となっている。2003年以降の上海版の高校歴史教科書を含め、全国の高校歴史教科書は「新課程改革」によって初めて入札で決定された「普通高中歴史課程標準（実験）」（中華人民共和国教育部制訂、人民教育出版社出版、2003年）にもとづき、編集された¹¹⁾。

人教社歴史編集室の関係者に対する筆者のインタビュー調査を通じて、実は上海の高校歴史教科書の記述内容が問題になっていたとき、中国の多くの地域で教科書として採択されている人教社版も上海の蘇版教科書とほぼ同じ構成で、新しい高校歴史教科書の編集をすでに終え、出版の準備もほぼ完了していたことが判明した。上海の教科書に対する批判の高まりを受け、正式な出版は一時延期されたものの、その後若干の修正を経て、2007年に出版され、今日まで継続して使用されている。上海の蘇版教科書とほぼ同じ構成で編集された理由は、まさに2003年版の「課程標準」に従い、世界の文化史、経済史、政治史を重視する編集作業方針のもと、国家の歴史よりも人類全体の歴史を重視したからである¹²⁾。

修正を経ていまなお中国各地で使用されている人教社版高校歴史教科書は、上海版の失敗を踏まえ、高校1年生で人類の文明史から入るのではなく、政治制度史や中国および世界の経済史を教え、高校3年生になってから思想史、文化史、科学技術史を中心に教える構成になっている。さらに、『ニューヨークタイムズ』の記事で指摘されたような中国史の割合が著しく減少したイ

図9-6 人民教育出版社 2007-2014年高校歴史教科書（人教社版）の国別内容の割合



出所：人民教育出版社課程教材研究所・歴史課程教材研究開発中心編著『普通高中課程標準試験教科書 歴史1 必修』（人民教育出版社、2007年1月第3版 2014年12月第19刷）、人民教育出版社課程教材研究所・歴史課程教材研究開発中心編著『普通高中課程標準試験教科書 歴史2 必修』（人民教育出版社、2007年1月第3版 2014年5月第18刷）、人民教育出版社課程教材研究所・歴史課程教材研究開発中心編著『普通高中課程標準試験教科書 歴史3 必修』（人民教育出版社、2007年1月第3版 2015年5月第21刷）の内容にもとづき、筆者作成。

メージを和らげるため、3冊の教科書とも、中国の政治制度史、経済史、思想史を冒頭においた¹³⁾。その結果、図9-6にまとめたように、人教社版高校歴史教科書の中国史の比率は54.7%と、半分以上を占めた。

しかし、教科書全体の編集方針が人類の政治史、経済史、思想史などを中心においたものであったため、政治史や経済史のなかに国家の歴史も紹介されているものの、「世界」というキーワードで紹介されている部分も11.9%を占め、蘇版教科書に比べれば少ないものの、沈版や余版教科書よりは割合が高い。また、「欧州」（7.4%）というキーワードや、「米国」（5.0%）、「英国」（4.0%）、「ロシア」（3.6%）など、欧米諸国に対する紹介がアジアやアフリカ

の地域、国家よりもかなり多いことも特徴的である。それは、世界の政治制度史、経済史、思想史、文化・科学技術史を中心に説明すれば、教科書の記述がおのずと西洋史中心となってしまいうためであろう。なお、ロシアに関しては、ソ連の社会主義制度史を中心に紹介されている。

アジアについては、中国史の比率を高めたあおりを受け、上海の高校歴史教科書と異なり、日本とインドの歴史にはあまり言及されていない。とりわけ日本関連部分は1.2%にとどまっているが、これは2000年代以降の人教社版の中学生向け歴史教科書に共通してみられる傾向である¹⁴⁾。

つまり、人教社版高校歴史教科書が示すように、上海市以外の地域で使用する中国の高校歴史教科書は上海の教科書事件の後、若干の修正を行ったものの、2003年版「普通高中歴史課程標準（実験）」に従い、世界・人類の政治制度史、経済史、思想史、文化史を中心とする記述内容を一貫して保ってきた。全国規模における歴史教育改革の挫折ではなく、むしろグローバル化に向けた教育改革は進展していると評価できよう。

中国全体でみれば教科書改革が進んでいるからこそ、『ニューヨークタイムズ』の報道を契機とする上海の教科書改革の挫折は、残念な結果と評さざるをえない。しかも、上海の教科書事件において、さらに残念に思われるのは、この『ニューヨークタイムズ』の報道が不十分な事実確認にもとづいていたことである。

2006年9月1日の『ニューヨークタイムズ』の記事は、「人類の早期文明」、「人類生活」、「人類文化」といった構成をみて、「毛（沢東）はどこにいる？」というセンセーショナルな見出しをつけ、上海の高校1年生向け教科書でビル・ゲイツを紹介する一方、毛沢東や階級闘争の内容が全面削除されたかのイメージを読者にもたせながら、上海の教科書改革を大々的に紹介した。無論、本章で指摘したように、蘇版教科書の中国史を含む国家についての記述は、3年生の教科書で重点的に取り上げられている。『ニューヨークタイムズ』の記者は高校1年生向けの教科書しか読まず、事実を曲解して記事を書いたともいえよう¹⁵⁾。

佐藤公彦の研究によれば、『ニューヨークタイムズ』の記事を受け、多くの中国国内のメディアも蘇版教科書を確認することなく、その内容を転載し

たため、中国国内で歴史教育に関する論争が巻き起こり、最終的には北京の共産党老幹部の批判を受け、蘇版教科書は使用停止に追い込まれた。これに対し、主編の蘇智良氏は「ビル・ゲイツは1カ所しか出てこないが、毛沢東は120カ所も出てくる」と『南方週末』紙で語ったように、『ニューヨークタイムズ』紙記者の事実誤認を指摘し、各界の理解を求めたものの、その事実誤認はすでに世界規模に拡散されており、蘇氏の主張は聞き入れられなかった¹⁶⁾。

また上海の教科書事件からわかるように、中国のメディアや共産党の幹部たちは外国メディア、とくに欧米メディアの中国報道に過剰反応しがちである。これは対外的なイメージを気にする儒教的な要因に由来するものかもしれないが、それがときとして外国メディアの報道が中国の内政に大きな影響を与えるケースもある。

その一方、近年の中国経済の発展を背景に、多くの外国メディアが中国に記者を派遣し、中国に関する報道を行うようになるだけでなく、アジア総局を中国国内におく事例も増加している。そのなかには、中国事情に詳しくない記者も含まれていることは否定できない。ゆえに、世界で伝えられている中国報道の一部ではあるものの、中国に対する誤解や事実誤認にもとづく報道も混じっている。しかも、それらの報道は海外における誤った中国イメージの形成につながるだけでなく、上海市の高校歴史教科書の事例のように、中国の内政に影響を与える事態を引き起こしかねない。外国のメディアは、中国の動向に注目するあまり、国際社会の価値観を共有するような改革まで挫折に追い込んでしまうおそれがあることにも一層注意を払う必要があるだろう。

できるだけ正確な報道が求められることはいうまでもないが、中国国民あるいは中国の政策関係者においても、中国はすでに世界的な大国となり、外国のメディアから常に注目されていることを自覚し、外国メディアの報道に過剰反応しすぎないように心がける必要もあると思われる。

おわりに

上海独自の三つの高校歴史教科書についての比較分析を通じて、上海市の

歴史教育改革がグローバル化の発展に応じて、さらには中国政府の新課程改革に沿おうとしたこと、蘇智良のチームによって新しい形の歴史教科書が編集、出版されたことを確認した。蘇版教科書は、中学校の歴史教育との連動性を重視し、重複を省く一方、全世界規模での文化史、文明史、経済史、宗教史と世界近現代史を中心に編集された。国家史に関する紹介は、中国と六つの先進国以外は基本的に世界全体の発展の流れのなかで取り上げられ、全世界の総合的な歴史の一部として説明された。

『ニューヨークタイムズ』の一部誤った報道により、蘇版教科書は中国国内外で大きな反響を呼び、結果として同教科書の使用停止に至った。しかし、本章の分析を通じて、この使用停止処分は、蘇版教科書における編集理念の全面否定を意味するものではないことが明らかとなった。蘇版教科書の編集方針や記述内容は、中国の中央政府による教育改革と合致しており、その具体的な根拠として、次の二点があげられる。

第一に、上海市は2007年に蘇智良主編の高校生向けの歴史教科書は使用停止としたものの、同じく蘇智良が主編を務めた中学生向けの歴史教科書については、特段の処置を講じることなく、その後も教科書として使用していることである。

第二に、2004年に全国小中高等学校教科書審定委員会の初審を通った人教社の高校歴史教科書は、2006年の上海の教科書事件で出版時期が一時延期となり、2007年によりやく出版された。その編集方式などが上海の蘇版教科書でもっとも批判されていた文化史の部分を第三分冊に後回しした点などを除き、上海の蘇版教科書と非常に類似していることである。全国でもっとも多く使用され、国定教科書に近い性質をもつ人教社版の高校歴史教科書の内容および形式は、上海蘇版と驚くほど似ていることから、今回の歴史教科書編集方針の変更は、上海市だけではなく、全国レベルの政策変更であり、教育部によって出された2003年版「普通高中歴史課程標準（実験）」にもとづくものであることが判明した。

蘇版教科書が使用停止になった後に出版された余版教科書の内容は基本的に、中学校の歴史教育の繰り返しとなっている。この点において、さらには人教社版の教科書との比較においても、余版教科書は、厳しい時間制限のも

とで編集されたものであると同時に、中央政府が推進している新課程改革の精神とも合致せず、政治的な圧力を受けての暫定的な対応ともいえる。

しかし、本章での分析から、歴史教育研究や報道の問題点も明らかになった。中国政府は新課程改革の推進を通じて、人間の総合的な資質を高める教育を実行し、学生の思考能力を高め、中国および世界のグローバル化の進展に適応した学生の育成を目標としている。しかし、この改革の成果が十分現れていないうちに、『ニューヨークタイムズ』などの外国メディアによる報道が上海の蘇版教科書を使用停止に追い込んだことは、一つの教訓を残したともいえる。中国政府と歴史学界が国際情勢を意識しながら進めようとした歴史教育改革は、外国メディアの報道によって思わぬ形で国内外の話題を集め、歴史教育分野以外の老幹部の干渉を招いて、一時的な停滞を余儀なくされた点には留意しなければならない。ただし、現状をみれば、教育改革そのものは、いまなお続いている。上海では使用停止になった教科書と編集方針が類似する人教社版の高校歴史教科書が全国で使用されていることは、その証左となろう。

- 1) 佐藤公彦『上海版歴史教科書の「扼殺」——中国のイデオロギー的言論統制・抑圧』日本僑報社、2008年。
- 2) 熊明安主編『中国近現代教学改革史』重慶出版社、1999年、250頁。
- 3) 張栄偉『“新課程改革” 究竟給我們帶來了什麼？』福建教育出版社、2008年、22-23頁。
- 4) 人民教育出版社図書館編『人民教育出版社書目（1950～1999）教材卷』人民教育出版社、2000年、121頁。
- 5) 張栄偉『“新課程改革” 究竟給我們帶來了什麼？』福建教育出版社、2008年、29頁。
- 6) 張栄偉『“新課程改革” 究竟給我們帶來了什麼？』福建教育出版社、2008年、29-37頁。
- 7) 中国語の「試験本」「実験本」「試用本」はパイロット版の意味である。中国の出版社や編集者によって使う用語が違うが、意味が同じである。本章では原文のままで表記する。
- 8) 『高級中学課本拓展型課程教材 歴史 高中三年級（試験本）』上海中小學課程教材改革委員會、上海世紀出版集團上海教育出版社、2005年8月第1版第1刷。
- 9) 蘇智良主編『九年義務教育課本 中国歴史 七年級第一学期（試験本）』華東師範大学出版社、2002年8月第1版 2003年7月第2刷、蘇智良主編『九年義務教育課本 中国歴史 七年級第二学期（試験本）』華東師範大学出版社、2003年1月第1版

2003年11月第2刷、蘇智良主編『九年義務教育課本 中国歴史 八年級第一学期（試験本）』華東師範大学出版社、2003年8月第1版 2004年7月第2刷、蘇智良主編『九年義務教育課本、中国歴史 八年級第二学期（試験本）』華東師範大学出版社、2004年1月第1版 2004年11月第2刷。

- 10) 余版の残りの0.8%は前文などその他の部分である。37.0%は図9-2の世界+アジア+アフリカ+南米+北米+欧州。16%は図9-3の同上データの合計（小数点以下も入れて計算しているので、図9-3と0.2%の誤差がある）図9-3で計算すると15.8%になる。 $83.2\% = 100\% - \text{地域主体の}16\% - \text{その他の}0.8\%$ 。
- 11) 唐磊（人民教育出版社課程教材研究所日語編輯室編審）「中国の「課程標準」は何を目指すか」2013年度早稲田大学日本語教育学会講演会、2013年7月18日、早稲田大学22号館201教室。
- 12) 人民教育出版社歴史編集室関係者へのインタビュー、北京、2009年8月30日。
- 13) 人民教育出版社課程教材研究所・歴史課程教材研究開発中心編著『普通高中課程標準試験教科書 歴史1 必修』人民教育出版社、2007年1月第3版 2014年12月第19刷。
人民教育出版社課程教材研究所・歴史課程教材研究開発中心編著『普通高中課程標準試験教科書 歴史2 必修』人民教育出版社、2007年1月第3版 2014年5月第18刷。
人民教育出版社課程教材研究所・歴史課程教材研究開発中心編著『普通高中課程標準試験教科書 歴史3 必修』人民教育出版社、2007年1月第3版 2015年5月第21刷。
- 14) 王雪萍「中国の教科書から見る分断した日本像と日中関係」『東亜』2006年4月号、72-81頁。
- 15) Joseph Kahn "Where's Mao? Chinese Revise History Books," *New York Times*, 1st. 2006. 9. 1.
- 16) 佐藤公彦『上海版歴史教科書の「扼殺」』、10-26頁。



慶應義塾大学東アジア研究所・現代中国研究シリーズ
中国对外行動の源泉

2017年3月30日 初版第1刷発行

編著者———加茂具樹
発行者———古屋正博
発行所———慶應義塾大学出版会株式会社
〒108-8346 東京都港区三田 2-19-30
TEL〔編集部〕03-3451-0931
〔営業部〕03-3451-3584 〈ご注文〉
〔 〃 〕03-3451-6926
FAX〔営業部〕03-3451-3122
振替 00190-8-155497
<http://www.keio-up.co.jp/>

装 丁———鈴木 衛
写真提供———ユニフォトプレス
印刷・製本——株式会社加藤文明社
カバー印刷——株式会社太平印刷社

© 2017 Tomoki Kamo

Printed in Japan ISBN978-4-7664-2408-9